

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-62C	16-019	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) and alcohol dehydrogenase 1B (ADH1B) polymorphisms exacerbate bladder cancer risk associated with alcohol drinking: gene-environment interaction.</p> <p>アルデヒド脱水素酵素 2 (ALDH2) と 1B 型アルコール脱水素酵素 (ALDH1B) 遺伝子多型は飲酒と関連した膀胱癌のリスクを増加させる：遺伝因子と環境因子の交互作用</p>		
執筆者		
Masaoka H, Ito H, Soga N, Hosono S, Oze I, Watanabe M, Tanaka H, Yokomizo A, Hayashi N, Eto M, Matsuo K.		
掲載誌		
Carcinogenesis. 2016 Jun;37(6):583-8. doi: 10.1093/carcin/bgw033.		
キーワード		PMID
膀胱癌、ALDH2、ADH1B、飲酒		26992901
要 旨		
<p>目的： 科学的な曝露(喫煙や職業)は膀胱癌(BCa)の進展の危険因子であると認識されているけれども、多くの公衆衛生学的研究は飲酒は BCa リスクと関連がなかったことを示している。アルデヒド脱水素酵素 2(ALDH2; rs671, Glu504Lys)と 1B 型アルコール脱水素酵素 (ADH1B; rs1229984, His47Arg) 遺伝子多型はアセトアルデヒドの蓄積に強い影響を与え、様々な癌のリスクを増加させる。しかし、現在までに BCa リスクと飲酒の関連を評価した研究でこれらの遺伝子多型を検討したものはない。</p> <p>方法： ALDH2 および ADH1B 遺伝子多型が飲酒関連の BCa リスクに影響を及ぼすかどうかを患者対照研究で行った。2001 年 1 月から 2005 年 12 月までに愛知県がんセンター病院を受診した者のうち 74 人の BCa 患者を患者、740 人の癌ではない初診外来患者を対照とした。オッズ比(OR)、95%信頼区間(CI)、遺伝子と環境因子の交互作用は潜在的交絡因子で調整した条件付きロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>結果： ALDH2 Glu/Lys は Glu/Glu と比較して BCa リスクを有意に増加させた(OR2.03, 95% CI1.14-3.62, P=0.017)。ALDH2 Glu/Lys は Glu/Glu と比較して非飲酒者においてリスクを増やさず、遺伝子と環境因子の交互作用を示唆した。ADH1B His/Arg は His/His と比較して OR1.98(1.20-3.24、P=0.007)であった。ADH1B Arg+も同様の結果であった。</p> <p>結論： ALDH2 Glu/Lys と ADH1B Arg+は ALDH2 Glu/Glu 及び ADH1B His/His を比較して BCa リスクが最も高かった(OR4.00(1.81-8.87), P=0.001)。</p>		